

国連 SDGs × イバラキ

分野：教育・研究、地域交流、国際交流」

代表者：人文学部人文コミュニケーション学科 4年 甲 香菜子

連携先

- ・つくば市役所
- ・Santi Sena
- ・持続可能な開発・みえ

- ・矢ノ目 颯

(人文社会科学部現代社会科学科 2年)

- ・小室 奈々子

(人文社会科学部現代社会科学科 2年)

顧問教員

野田 真里 (人文社会科学部・准教授)

プロジェクトの概要

●テーマ

地球規模で考え、茨城から行動する国連SDGs

●国連 SDGs とは

SDGs は “Sustainable Development Goals” (持続可能な開発目標) の略称で、「エス・ディー・ジーズ」と読む。2015年9月の国連サミットで採択された2016年から2030年までの国際目標であり、持続可能な世界を実現するため17のゴール、169のターゲットから構成されている。現在では、日本でも多くの自治体や企業が注目し、SDGs に対する取り組みを進めている。

●目標

持続可能な地域社会・地球社会を実現するためのグローバル目標、国連SDGsについて、国際交流、地域交流、学生交流等をつうじて理解を深め、地域社会のステークホルダーと連携して、SDGsを地域から展開・実現する。

●目標の達成方法

持続可能なプロジェクトとするため、第

参加者

- ・甲 香菜子
(人文学部人文コミュニケーション学科4年)
- ・小泉 咲綺
(人文学部人文コミュニケーション学科4年)
- ・佐々木優夏
(人文学部人文コミュニケーション学科4年)
- ・青柳 玲美
(人文学部人文コミュニケーション学科4年)
- ・坂本 咲
(人文学部人文コミュニケーション学科4年)
- ・佐藤 美穂
(人文学部人文コミュニケーション学科4年)
- ・郡山 葵
(人文社会科学部現代社会科学科 2年)
- ・幸田 真帆
(人文社会科学部現代社会科学科 2年)

1 段階、第 2 段階に分類した活動を設定する。昨年度は第 1 段階に重きをおいて活動を行ってきたため、今年度は第 2 段階の強化に努める。

-
- ① 学生自身が SDGs を地域交流・国際交流・学生交流等をつうじて、持続可能な開発の担い手となる。
 - ② 地域社会に SDGs を展開：高校生、大学生、地域住民等への ESD（持続可能な開発のための教育）を実践する。
-

●連携の方法・内容

第 2 段階に力を入れた活動を行うにあたり、連携先と共催をさせていただくことで、学生だけでは困難なプロジェクトの実施を行うことができた。

プロジェクトの成果報告

●今年度の活動【第 1 段階】

① 国際バカロレア IB についての講演、ワークショップ

大学院で IB 教育者養成コースを学ぶ竹内彩希さんをお招きした。国際バカロレア IB と SDGs の関係について講演を行い、SDGs を実現するための日本の教育の問題点について意見が出し合われた。



ワークショップの様子

→SDGs 目標 4「質の高い教育をみんなに」

②志摩市役所への訪問

三重県で唯一 SDGs 未来都市に選ばれており、G7 伊勢志摩サミットの開催地でもあった志摩市を訪問した。竹内千尋市長から志摩市の SDGs の取り組みや、今後の志摩市の在り方についてご説明いただき、SDGs の地域展開についての意見交換を行った。



意見交換の様子

→SDGs 目標 11「住み続けられるまちづくりを」

●今年度の活動【第 2 段階】

①「市長と語る！つくば SDGs セミナー」の共催

五十嵐立青市長登壇の下、茨城大学、東京大学、インターナショナルスクールの学生が集まりワークショップが開催された。内容としては、茨城大学野田真里教授によるイントロダクション、つくば市五十嵐立青市長によるセミナー、そして、ワークショップとして市長への政策提言が行われた。つくば市の政策を基に、地域の持続可能な開発の実現について活発な議論が行われ、市民参加の重要性がテーマとなった。



グループワークの様子



セミナー後の記念撮影

→SDGs 目標 17「パートナーシップで目標を達成しよう」

② フェアトレード商品の販売

連携先である Santi Sena 協力の下、カンボジアのフェアトレード商品をつくばカピオで開催された手作り雑貨・クラフトフェアで販売した。

昨年度は、主に茨城大学内で SDGs の啓発を行ってきたので、地域に飛び出して SDGs を展開するよい機会となった。



販売の様子

→SDGs 目標 12「つくる責任、つかう責任」

③ 三重県答志島サステイナブルキャンプの共催

三重県と静岡県の高校生が答志島に集まり、離島に住む島民が困っていることの解決策について島民と共に考える合宿が行われた。SDGs イバラキは、SDGs みえの共催の下、ファシリテーターとして高校生と島民の議論が活発に行われるよう手助けを行った。合宿では、高校生自らが島でインタビュー調査を行い島の課題や魅力を見つけ、それについて島民から話を聞いた。最終日には、グループごとに島への提案を発表した。



グループ発表の様子



島の魅力を感じるメンバー

→SDGs 目標 17「パートナーシップで目標を達成しよう」

● プロジェクトの周知活動

Facebook ページを利用しプロジェクトの活動報告や講演会の宣伝などを行った。

また、昨年度非常に好評であったオリジナルのロゴマークが入った缶バッジを更に追加で作成、また今年度は小さいお子様にも渡せるようにキーホルダーの作成を新たにを行い、活動に興味を持ってくれた人に配布した。



オリジナルロゴマーク

は、当団体の活動や、SDGs、フェアトレードについてのパネルを設置していたが、これらについて興味をもって聞いていただける方は少なかった。今年度は、つくばSDGsセミナー、答志島サステイナブルキャンプ等、興味を持っている人を対象にSDGsの啓発を行った活動が多かった。しかし、今後は、SDGsをまったく知らない人に興味をもって達成へ取り組んでもらえるような新しいアプローチを行っていきたい。

●昨年度の課題に対する振り返り

昨年度の反省としては、第2段階であるSDGsを学内や学外に広める活動が少なかったことが挙げられていた。今年度は茨城大学内だけではなく、様々な地域へ行ってSDGsの啓発を行うことができた。また、関わる人々の年齢層についても、昨年度は主に大学生であったが、今年度は高校生からお年寄りまで、多様な人に向けた活動を行うことができた。

しかし、メンバーの多様性については依然として多くが人文学部および人文社会科学部であるため、他学部のメンバーを集める工夫がさらに必要となる。

●今後の展望

今年度の活動を通して、地方自治体や企業には少しずつSDGsの認知度が上がってきていることが分かった。しかしながら、市民レベルでは知っている人がほぼいないと感じた。例えば、フェアトレードの販売で